

KENTO OKAYAMA



KENTO OKAYAMA



# キミが!

君の潮が欲しいので吹かせてもいいですか?

R18  
ONLY





かわいい幼なじみが  
遊びに来てやったぞー！

バキッ！！

カ  
ア  
ミ

主人公の幼なじみ  
かざみ  
風見アミ

おや〜？

たった一人の  
科学部員にして

超ド変態発明王の  
部長様じゃないですか〜

ニヤ〜♡



かまかまかま...

はあはあ!!

別に暇だから  
来ただけだし!!

全然  
好きだからじゃないし!!



おっ！  
机に置いてあるのって  
ジュース？

〇〇〇

ちょうど喉乾いてたんだ

もぐもぐさっおっ！





んっ...

んっ...

んっ...

なんか…  
頭ふわふわ…しゆる

……ふんっ

ほろほろ

ほろほろ

ほろほろ

ほろほろ





んっ♡

んっ♡

んっ♡

カ

カ

カ

カ

カ





幼馴染に  
こんなことするとか

ト変態すかてしよ...

とっ

とっ

びしょ...

びしょ...

とっ

とっ



しかも私の  
し：潮が欲しいとか  
変態の極みみたいな  
……

そ…それって…

びしょ!!

びしょ!!

ぬっ!!

びしょ!!

はぁ  
はぁ!!!

は...初めて見たに  
決まってるでしょ...

ピュ...

ピュ...

ピュ...

ピュ...







おまんこ潰したら  
すぐ…イク…っ

ゴッ

あッ

あッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ギョウ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

あッ





.....  
.....

シャワー  
シャワー

シャワー

シャワー

シャワー  
シャワー

シャワー

シャワー

シャワー

シャワー

シャワー

シャワー

シャワー

シャワー

シャワー





なに...それ...?  
怖いよう...

ふえ...?

ぬ...?

ぬ...?

ぬ...?

ぽ...?

が...?

ぽ...?

ぽ...?

juv



んえっ……?

はっ

はっ

はっ

はっ

ジュジュ

キュウウウウウウ

なにが...

ジュジュ





「きゃー...」

「急にいった...  
うぐっ...」

「バチバチ...」

「シャワー...」

「シャワー...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」

「...」



やだやだ!!

待って!!

それですイナ!!

ギョウウウウウウ





シャワー

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

ジュウジュウ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

トホ...

カキカキ

ジュウジュウ

























ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

Q

ん


ん!!!







また……来るから……



イラスト

**KENTO OKAYAMA**

シナリオ

**KENTO OKAYAMA**



# ATOYAKI



KENTOです。

「キミシオ！」をご購入していただき、本当にありがとうございます！！  
この本で楽しんでいただけたら、とても嬉しいです！！

さて、今回の本は「絵柄が変化してから、初めてのR18本」だ。  
僕のことをずっと追ってきてくれた人は気づいていると思うが、僕はある日を境に絵柄が変化し始めた。  
昔の僕の絵と、今の僕の絵を見比べてもらえば、その変化はすぐに気づくだろう。

そもそも、絵柄を変えることになったのは、ある人とのやり取りがきっかけだ。数カ月前、僕は成人向け漫画家になるため、出版社へ漫画の持ち込みを行っていた。そんな中、とある出版社の編集さんに言われた。

「今の個性的すぎる絵柄では、成人向けの漫画として読者に受け入れられない。絵柄を変えることができれば、うちで連載を目指せるかもしれないが、どうする？」

僕はチャンスだと思った。なぜなら「絵柄を変えることさえできれば、連載できる」のだから。そこから、プロの漫画家の絵をトレースする練習が始まる。編集さんに何度も添削してもらい、描き続ける日々。しかし、僕には時間が無かった。これは初めてというが、僕は毎月赤字で暮らしている。フリーランスになってから半年間、ずっと貯金を切り崩して生活している。このことを言うと、イラストレーターとして価値が低く見られると思い、今日まで誰にも言わず過ごしてきた。

漫画家の絵をトレースする練習をしても、お金は一銭も入ってこない。そんな状況でも、編集さんからの「やり直し」は絶えない。そこで僕は決断した。

「よし……漫画家になることは諦めよう」

僕は今まで、「自分に合っていない」と思ったらすぐに辞める人生を歩んできた。野球を辞めて、サッカーを辞めて、テニスを辞めて、バドミントンを辞めて、……会社を辞めて…。

「考える……僕は、漫画家になりたかったのか？」

「違う…ただ原稿料が欲しかっただけだ…。漫画家として連載を持てれば、定期的にお金がもらえるから」

「僕がイラストを通して、ずっとやってきたことってなんだ…？」

「『女の子、エロ、フルカラー』のイラストをずっと描いてきた…」

「出版社の編集さんに言われた言葉…『漫画とイラストは、そもそも画法が違う。それぞれ違った能力が必要』」

「……」

「つまりだ……、僕が目指すべきは『エロ漫画』ではなく、『フルカラーのイラスト集』……？」

「僕が持ち合わせている能力を組み合わせれば、『漫画っぽいイラスト集』を作れるんじゃないか…？」

「……」

「確か、あの大手サークルのエロ漫画家さんは、フルカラーのセリフ付きイラスト集を出していたな…」

「……やってみるか…」

「……」

「……あれ…？ 絵柄を変える練習をしてから、いいねの数や閲覧数の伸びがすごいな…」

この数カ月、編集さんとやってきたことは決して無駄ではなかった。もしあの編集さんと出会えていなかったら、僕は絵柄を変える決断をしていなかっただろう。少しずつ…少しずつではあるが、多くの人に認めてもらえる絵になってきたのかもしれない。

これからの結果がどうなるかは分からない。あのまま漫画家を目指すのが正解だったかもしれないし、方向性を変えた今の状況が正解かもしれない。

当時、イラストの仕事で月一万円しか稼げなかったのに会社を辞めてフリーランスになったり、毎月赤字のくせに激安アパートで一人暮らしを始めたり、僕は「安定」をゴミ箱に捨てる行動をしてきた。だが、それらの決断に後悔はない。すべて僕自身が考えて決断してきたことだからだ。

お金の悩んでいた僕に、兄は言った。

「KENTOがお金のことを優先しだしたら、終わりだ」…と。

お金のためじゃなく、「絵を描く仕事をしたい」から僕はフリーランスのイラストレーターになった。それを知っていた兄は、お金の執着する僕を見てそう言ったのだろう。

もちろん、お金は大切だ。お金がないと生活できないから。ただ、お金はあくまで自分を支える松葉杖。決して、目の前にぶら下がったニンジンではない。

「僕の絵に価値を感じ、お金を払ってくれる人がいる」

それが僕の目指す理想であり、最大の幸せだ。

改めて、ご購入していただき本当にありがとうございました！

presented by KENTO OKAYAMA

お問い合わせ&感想はこちら！

★E-Mail

[kentookayama145@gmail.com](mailto:kentookayama145@gmail.com)

★ウェブサイト

<https://kentookayama.jimdofree.com/>



Twitter



Pixiv







































































